

令和5年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会
第4回 エンディングノート作成部会会議録

- 1 日 時 令和5年11月29日(水) 19時15分～20時30分
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎 新館3階 茶木魚
- 3 出席者 (出席) 岡 部会長、金原委員、坪井委員、平野委員、河西委員、
近藤委員、中村(美)委員
関係者：浅利委員、稲葉委員、間淵委員、坪川委員
(欠席) 成島委員、中村(敬)委員
(事務局) 地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 酒井次長
在宅医療・介護連携推進係 森川次長補佐、白鳥主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 次 第 (1) 開会
(2) 議事
エンディングノートの内容の修正等
(3) 閉会
- 6 会議内容
(1) 開会 開会宣言及び会議成立の報告
(2) 議事 エンディングノートの内容の修正等

平野委員

最初の「終活について考えてみませんか？」はわかりやすくよい。その次の「(仮称)エンディングノートについて」のところは、名前は今後検討していくとして、1枚目の裏に、書き方のポイントを説明してくれている。導入としてはこの表と裏のところよい。

他に、意見はあるか。

金原委員

かかりつけ医の定義はなにか。

平野委員

かかりつけ医とは、実は患者と先生・病院診療所の双方がかかりつけ医だと思うのが本当の理想的なかかりつけ医ではある。一方通行だと、駄目。そこが一番難しいところでもある。

金原委員

もし、在宅の方に来てくれる場合、どのようにしたらいいか。

平野委員

先生が最後判断するというよりも、患者さん自身が何でも相談しやすく、健康のことを含めていざとなったときに、どの先生にお願いしたらどのような方向にしてくれるかということ相談しやすい人がかかりつけ医。取捨選択していく一番大事な所。

平野委員

1 ページの「かかりつけ医」のところは、病院名だけになっているが、病院名・診療所名併記で入れるとよいのではないか。または、医療機関名にしたらどうか。また、担当科があるかどうか。

浅利委員

医療機関が病院の場合は、担当科も必要。

平野委員

最初に医療機関、次に電話番号、その後に担当医、最後にそこが病院だと担当科という具合に、優先順位が左から右に、という感覚で書けるようにするとわかりやすいのではないか。

浅利委員

担当医は、医療機関のあの先生に診てもらっているという意識が患者さんや家族にはあると思うので、医療機関・担当医・電話番号、医療機関が総合病院の場合は、担当科という説明でどうか。

平野委員

「担当科」は入れる。最初を「医療機関」にして、そこが一番大きくてその次に「担当医」、その後に「担当科」を入れて、「電話番号」を入れる。そういう並びで、もう一度作り直していただく。

2 ページ目、「かかりつけ薬局」の「目的」とは何か。

河西委員

血圧とか糖尿とかで書くというものだが、本人がよくわかってないことが多いので、薬名だけでもよいのではないか。ただ、4 ページにお薬情報を貼るというふうにしてあるならば、ここは自身で買う市販薬、健康食品、サプリメントなどを書けたらよいのではないか。医療機関からもらう薬は 4 ページに貼って、それ以外の普段使っている健康食品などを書くというようにする方が整理できるのではないか。

平野委員

常用薬のところは、自分で購入して飲んでいるサプリメントや、ドラッグストアで買っているものを入れるようにする。そこは結構記憶に残っているものなので、メモしやすい。医療機関からもらう薬は羅列できないかもしれないので、それは4ページに貼るという使い分けにした方がいい。

平野委員

2ページ目の常用薬のところは、自分で購入しているという文言をどういうふうに入れたらいいか。

河西委員

「市販薬、健康食品、サプリメント」と書いた方がよい。「※医療機関からもらったお薬は4ページに添付してください」と付記すればよいのではないか。

平野委員

2ページ目は、「かかりつけ薬局」「既往」「アレルギー」の後に、「市販薬、健康食品、サプリメント」という文言を入れて、最後にする。

今のところの2ページの常用薬のところと4ページのところが、一つのページにまとまるようにして、2ページ目のそれ以外のかかりつけ薬局、既往、アレルギー、次の3ページ目のその他のところと地域包括支援センター、利用サービスが続くような形にしてほしい。

あと、「既往歴等 ※「いまの状態」について○をつけましょう。」のところで何か意見ありますか。

岡 部会長

年齢を重ねると、たくさんの既往歴がある。どういうふうな基準で書いてもらうかは本人に任せるしかない。ただ主な既往歴となると、「もしものときの医療の希望」の見開きがあればありがたい。

平野委員

既往歴とか今の状態についてというのは本人だけでは書ききれなく、誰かと一緒に書くときでも備忘録で覚えている範囲内のことで、大事なことだけ書いてもらう。今の問題、昔の問題、そういうのを理路整然と書けないといけないような仰々しいものになると、負担が強くなる。自由に書いてもらう形で、あまりこだわらなくてよい。最終的には聞く形になる。

間淵委員

聞きながら解決となると「どこに行っています」「担当者は誰ですか」という感じで聞いていくので、こういう形で書いていってもよいのではないか。

複雑にしても仕方ない。書ききれないし、細かく中身を書かなくてもどこの誰の連絡先が

分かれば大体問題はない。

稲葉委員

既往歴の量の話が出たが、家族に既往歴を聞いていくと、6、7個出てくるので数が多くてわからなくなる。

平野委員

そうすると4個ではなくて、8個にしてほしい。枠があると、優先順位を作ると思われる。

岡 部会長

主なものとして4個くらいで、「その他」と書いて、いくらでも書けるようにするのはどうか。

一番大事なのは、3ページの緊急時の取り扱いあたりが知りたいところ。そこに向かっていくのに、「家族や大切な方々」が「自分の基本情報」のところにあるが、身寄りのない人が一番頼りになるのは、周りの近所の人でいつも支援してくれている人、「家族や大切な方々」と言うとうわかりにくい。隣の人、身近な人という意味で「大切な方々」でわかるか、「家族や大切な方、気心知れて面倒見てくださる人」とか、そういうことがわかりやすく表現できる術はないか。

金原委員

既往歴のところだが、現在治療中というものだけでなく、過去のものが今現在もう治った場合でも支障があると言うと、ペースメーカーなどがあるが、どうか。

平野委員

「既往歴 ※『いまの状態』について○をつけましょう」ということで、もう終わっていることで書く人もいれば、現在進行形で書く人もいる。ここは、「既往歴」じゃない言葉のほうがいいのか。現在進行形の病気だと一番いいが、過去の問題も実は知りたいこともある。その優先順位は本人につけてもらえればいいので、「既往歴」というのほうがいいのか、「病名」の方がいいのか。

坪川委員

例えば「主な持病・既往歴」とか、それぐらいの書き方をして、本人にとってこれは知っておいてほしいということを書いてもらうのがよい。

平野委員

あまりこだわらないで何でも書けるように、坪川委員からあったような形の方がよろしいかと思うが、どうか。

間淵委員

いろいろ網羅されているので、わかりやすくよい。

平野委員

今回、「臓器提供や献体について」という項目が入っているが、医療の延長として死後のこのようなことも入れておいた方がいいか。

間淵委員

実はそれがわからないと、ご遺体の内容ができないので、あったほうがいいと思う。

浅利委員

角膜提供は時間に制限がある。いろいろなことに取り紛れていると、時間が経過し思いが繋がっていかないので、ここにチェックが入っているだけでも検索ができるので、大事なことだと思う。

平野委員

この「臓器提供・献体」については、このまま入れておく。

坪井委員

「臓器提供をしたい（意思表示カードの保管場所：）」と、保管場所を書くということ、既に提供の登録をしているということになるので、そうすると「臓器提供したい」ということでいいと思う。臓器提供の登録をしているのであれば「カードの保管場所」というのもわかるが、例えばこれを書いている時点で「自分も角膜提供したい」とかいう思いでチェックをして、登録をしていない人がいた場合に、家族がこれを見て「角膜提供をしたいんだって、その先はどうなっているのか」と思ったりする可能性がある。「登録をしている」とか、何かもう少し踏み込んだ言い方に変えた方がいいのではないか。

間淵委員

献体は、白菊会という会があって、そこに登録をされると思う。献体の希望があることがわからないと連絡に困るので、入れておいたほうがよいと思う。

平野委員

最初に「臓器提供をしたい」とか「角膜提供したい」にするのか、「する予定」などにするのか、ここの文言をどうするか。

岡 部会長

既に決めている人は書けるが、決めてなくてこれを見て初めてやろうかなと思う人の枠をどうするか、という問題。そこまで踏み込むかどうか。

平野委員

そうすると、その人の意思、決めていることだったらよいが、「したいと考えている」という文言でその後の保管場所等はなしで、その意思だけを確認したいというところで、最後の「臓器提供や献体はしたくない」と、「臓器提供・献体を考えている」の二つでよいか。

岡 部会長

家族が希望したらそれでもいいことになるか。

平野委員

考えて、決めている人は「その他」に書くということで良いと思う。

金原委員

両方ともほしい。過去に登録等してある人と、これからしたいという人がいると思う。今からでも亡くなったときに誰かやってもらえるものなのか。

平野委員

亡くなった直後からはできない。亡くなる前に、ちゃんと処理的なもの手続きを済ましていないと、急に亡くなったあと家族にお願いします、ということは無理。相続と同じように、事前に全部準備をしておかないといけない。だから、臓器提供や献体を、登録をしているということと、したくないということと、あとそれを考えているという項目にして、考えているけどそのままにしておくか、それを読んだ人が一緒に協力してくれるか、という文言にしていくのはどうか。

まず臓器提供や献体は、「臓器提供や献体の手続きは済んでいる」という欄を一つ、「臓器提供、献体を希望している」という欄を一つ、最後に「臓器提供、献体はしたくない」という欄、その三つ。

登録をしている場合は、手続きしたものがどこにあるのか確認する。考えている場合は、そこからみんなで考えていけばいい。したくない場合は本人の意思ということで尊重する。「その他」はいらなくなる。

坪川委員

「済んでいる」のあとに「保管場所」は残しておいたほうがいいのか。

平野委員

済んでいる人は、保管場所だけでなく、白菊会とか、連絡をする先の文言を入れた方がよい。

坪川委員

「保管場所」というのは臓器提供意思表示カードの保管場所ということでよいか。

平野委員

その通り。

坪川委員

献体とか献眼については、献眼の方は登録証制度になっているので、今それがどこにあるのか、献体であれば団体登録になっている。それぞれ少しずつ制度というか今あるものが違う。

近藤委員

希望する方がチェックを入れてあったのにも関わらず、亡くなってから家族が見たということにならないよう、何かいいコメントはないか。

平野委員

「希望する」となった後にそのままにしているのは、亡くなったときに残された人が困る。家族がいた場合、「希望する」を選んだら、必ず「家族等、信頼を置ける人と相談してください」というような文言を入れておくと確かによい。

坪川委員

「希望する」の欄はあった方がよい。注釈で「登録をしないと手続きはできません」というような文言を横に書き添えるのがよい。

平野委員

そういう文言を入れることでいいと思う。

金原委員

書き終わったら、家族に書いてあることを知ってもらう必要がある。一度目を通してもらっておいた方がいい。

平野委員

今までは皆さんこういうものを使ってなくて、誰かが何とかしてきている。ちゃんと自分の意思を書面に残せる人は残してほしいということで、今回作成しているので、実際 1 人で作る人もいれば、家族と相談しながら作る人もいる、家族などがいない人は作りようがないこともあったりするし、書きたくないとか面倒くさいという人もいると思う。いろんな人がいる。いろんな市民のケースを考えて、本人に合うように使ってもらえればいい。「その他の希望」をここに入れるのは、そこも含めてフリーで書けるところは入れていいと思う。「その他」は、何の希望かはその人が思い浮かべることでいいのではないか。

間淵委員

「経口摂取以外での栄養摂取」のところ、中心静脈の高カロリー栄養はしなくていいけれど、水分補給の末梢の点滴はやってほしいという場合、点滴が血管でもう取れなくなったらどうするか、皮下の点滴までするかと聞くと、やってほしいという方が結構いる。末梢をどうしようか。

平野委員

そのときにその人が思い浮かべる文言にして、細かいことはあまり書かなくていいと思う。

坪井委員

栄養摂取と書いてあるので、「利尿について」と考えると、これでいいと思う。末梢点滴とか皮下点滴となると、水分点滴が目的なので、栄養とまた違うのかと思ったので、これでもいいのではないかと最初はそう思っていた。栄養だからそれでいいと思ったが、結局、患者さんの家族からすると「普通の点滴でいい」と言うものだから、迷った。

平野委員

それは脱水の進行を緩やかにするための防疫という感覚で私は必ず説明する。それで、栄養が入るわけではないということも、そこで説明をするということ。

坪井委員

実際説明しながら聞いてやる。

平野委員

説明は、実際病院でも診療所でも在宅でもやるときにはそこは必ず確認するので、その文言だけでは判断しないと思う。今までこういうものがなくても、やれてきているので栄養ということに関して言うと、分けておいた方がいい。

8 ページ「判断能力が低下した時は」のところは、今回入れたが丁寧でわかりやすくなったという印象で、さらに「各種相談窓口へご相談してください」というところで、23 ページにその相談窓口が書いてある。坪川委員、いかがか。

坪川委員

結構、堅い話が多い部分でもあるので、どこまで書くかというのは悩ましいと思うが、これは一つの形と思う。細かいところでは、「※1 任意後見制度とは」は任意後見制度をもう契約していて、いざ自分の判断力が落ちたら発動するという方もいると思うので、任意後見制度を契約しているということを書く欄があってもいいのかもしれない。任意後見は、判断能力が落ちてから後見人候補者の人が裁判所に申し立てをして初めて手続きが実際に動き出すので、そこにタイムラグがあるというのは結構ある。本人の希望としては速やかに履行してほしいと思っているので、関係のある方が任意後見契約をやっていることがわかる

ような書き方が1つあってもいいと思う。

平野委員

8ページはこの書式でよいか。浅利委員どうか。

浅利委員

家庭裁判所への申し立てや法務局という言葉に、一般市民の方が身近な制度としてあるというよりはハードルを上げてしまうのではないかという心配をしてしまったが、他の委員はどうか。

「任意後見制度とは」のその後のことに必要な部分を追記して、2行くらいの文言と次の相談場所に繋がればというふうにイメージできるが、もしかしたら逆に家庭裁判所や法務局のバックがあるから安心だと思われるのか、迷うところである。

稲葉委員

業務上、任意後見とか法定後見とか、日常生活自立支援事業とがごちゃごちゃになって、ご相談に来る方が多くて、パンフレットを使い説明をしている。このフローチャートがあると、すごくわかりやすいというのは感じた。それぞれ簡単な制度ではないが、話しやすい機関があれば、そこから振り分けていけるような設定が必要と思う。私はフローチャートがあると、頭の整理ができると思う。

稲葉委員

分かりやすく簡単に言葉を絞って、書いてもらえれば説明しやすいだろうし、坪川委員が言ったように任意後見人がついて決まっていれば、それを書く欄を設ければよいと思う。

平野委員

後見人が決まっているときに書く欄を作ってください。

事務局

それを想定した「その他」という欄は一応含まれると思ったが、きちんとどこかに「任意後見制度をお願いしている人がいる」という欄を設けるということによいか。

平野委員

それでよいと思う。

河西委員

7ページの「人生会議」の次に、8ページから重たいところがあるので、7ページの後に、17ページの「自分史」から20ページまでを挟み込むのはどうか。「人生会議」に、「あなたを大切にしていることは何ですか」とか「信頼できる人は誰ですか」というのを書いてある

ので、それで17～20ページの「自分史」から「大切な人へのメッセージ」を入れて、その後で「判断能力が低下した時は」という形にした方が、いきなり重いテーマになるよりもいいのでは、という意見があったがいかがか。

平野委員

私も順番はその通りだと思う。

稲葉委員

その流れが良いと思う。「人生会議」と繋がりやすくなる。ただ、21ページの「終活支援事業者とは」というのは、どこがいいのか。最終手続きに近いと思っている。21ページ的位置はこれから一緒に考えていきたい。10ページを動かすという事でいかがか。

平野委員

21ページは、最後の「お問い合わせ先」の前にするのはどうか。21、22ページが近いところにあるのがいいと思う。

生活のところの9～10ページ、資産、財産、不動産、前に意見があったとおりに口座名や暗証番号を書かないような形で抜いてあるし、不動産、各種契約などは1枚で書けない人はそれを自分で増やしていくしかないが、書ける欄はこれでいいと思う。何か意見はあるか。

岡 部会長

時間になってしまったが、まだ十分ではない。ただ8ページの「判断能力が低下してきた時は」をどこの場所に入れるか、皆の意見を整理して事務局で考えてもらいたい。18ページぐらいまでは前に少し移動して、一連の流れを作るといいかもしれない。厚労省が書いた7ページをどこに持ってくるか、最後のページぐらいでもいいかどうか、その辺のことも皆さんに意見をもらいたい。緊急連絡先一覧などは、どの辺にしたらいいかというのも事務局でもう1回考え直してもらおうと大体の並べ方が決まってくると思う。

平野委員

事務局が作成した「<デザインについて>」というのは、各委員から意見をもらった方がよい。

「しずおかしがんガイドブック」の色合い、並び、見やすくする、というのと手に取りやすいというところで表紙のカバーを花にするのがいいのか、風景にするのがいいのかということも、何か意見があればいただきたい。まだ次回でも決められる。今回初めて見る方もたくさんいるので、メール等でやりとりをして、どれがいいかを出していきながら決めていくということで、お願いしたい。

事務局

いただいたご意見をまとめ、各グループリーダーを中心に、装丁の色合いや構成について、

議論していただきたい。

(別紙「エンディングノートの配布及び評価について(案)」を担当から説明)

配布方法、評価方法についても各委員の意見を寄せてほしい。

(4) 閉会

■会議録確認署名

「令和5年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会 第4回エンディングノート
作成部会 会議録」について、内容を確認しました。

静岡市在宅医療・介護連携協議会 エンディングノート作成部会 部会長

氏名(署名) 岡 真一郎